

活動報告

団体名	リバイブくまもと
活動名	被災地の子どもたちに学びの場を提供する活動
活動期間	2017年4月～2018年3月
活動の成果	<p>マインクラフトまちづくりワークショップでは、世界で人気のコンピュータゲーム「マインクラフト」の仮想空間で、自分たちが住んでみたい未来の街を構築しました。</p> <p>チームで話し合いながら未来のまちを設計し、役割分担しながらマルチプレイで作業を進めることにより、チームワークを育み、社会性を向上させることができたと思います。</p> <p>プログラミングワークショップでは、Webで使用できるビジュアルプログラミング環境を使用し、マインクラフトのキャラクターを動かしたり、学習用マイコンの操作を体験しました。論理的思考や情報活用能力の向上を実感することで、これからの復興に向けた自信や活力を得ることができたと思います。</p> <p>Web動画制作ワークショップでは、震災を経験した益城町の子どもたちが「ましきの記憶とわたしたちの未来」というテーマに沿って自らの記憶や未来に向けた思いを伝える1分程度の短編動画を制作、発表しました。</p> <p>企画・取材・撮影・編集など、iPadを使用してチームでWeb動画の制作を体験する活動を通じ、情報のインプットだけでなくアウトプットまでを自ら考え試行錯誤しながら、復興について考え学ぶことができたと思います。</p>
寄付者へのメッセージ	<p>熊本地震で被災した地域の子どもたちは、2度にわたる大きな地震とそれに続く余震で恐ろしい体験をしたばかりでなく、慣れない避難所や車内、仮設住宅での仮住まいの生活で、我慢を強いられたり思う存分に遊べなかったりと、不安やストレスを募らせています。災害から時間が経つにつれ、一見すると、普段の生活のペースを取り戻しつつあるように見える子どもたちにも、心の状態に配慮した長期的な支援が必要です。</p> <p>特に応急仮設住宅では、住み慣れた地元を離れて入居して来た世帯が、慣れない土地での生活を始めなければならず、保護者の帰宅時間が遅かったり友達ができず居場所のない子どもたちが孤立したり非行に走ったりするケースも出ています。</p> <p>リバイブくまもとでは、今年度も、熊本地震を経験した被災地域の子どもたちを対象に、心のケアと居場所づくり、そして論理的思考や情報活用能力、社会性の向上を目的としたワークショップを継続して開催したいと考えています。</p> <p>引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。</p>

(活動のようす)



